

地域に役立つ漁業士活動を目指して ～漁師料理教室から男女共同参画まで～

千葉県漁業士会勝浦支部
鈴木 正男



図1. 位置図

1. 地域の概要

私達のグループは、千葉県房総半島の南東部、太平洋に面した白子町から勝浦市にある5つの漁業協同組合（以下、漁協）に所属する漁業士で構成されている。北側には、長大な九十九里浜、南側には、変化に富んだリアス式海岸が続いている。各地に海水浴場があり、夏場には多くの海水浴客でにぎわっている。また、サーフィン等のマリンスポーツも盛んな地域である。

2. 漁業の概要

私達の地域には、5漁協、13漁港がある。砂地の九十九里浜では、チョウセンハマグリ等の「貝けた網漁業」、岩礁域では、イセエビ、ヒラメの「さし網漁業」やアワビ等の「海士漁業」が行われている。近海では、マダイ、ヒラメ、フグ類の「はえなわ漁業」やブリ類の「まきさし網漁業」が行われている。また、沖合では、「昼イカ釣り漁業」やキンメダイの「立縄漁業」の他に、太平洋を北上する黒潮を漁場とするカツオの「曳縄漁業」、マグロ・カジキの「はえなわ漁業」等、多種多様な沿岸小型船漁業が営まれている。

その他にも、中型船によるイワシ等の「まき網漁業」や県外船によるカツオの「一本釣漁業」も行われている。

特にイセエビについては、全国有数の水揚量を誇る千葉県の中でも、この地域で、その約半数を水揚げしている。

3. 研究グループの組織と運営

私達のグループは、漁業、後継者の育成や集団活動に積極的に取り組む漁業者として、千葉県知事から認定された「漁業士」が組織する、千葉県漁業士会の4支部の1つである。当支部は、6市町村5漁協に所属する17名（女性3名を含む）で構成されている。私達の活動目的は、相互に協力して地域水産業の発展に期することである。活動費用は、漁業士が負担する年会費から支出し、支部総会で決定した年度計画に沿って、組織的に行動している。

4. 研究・実践活動の取組課題選定の動機

私達の地域でも、魚離れ、後継者不足や環境問題、更には男女共同参画等、様々な課題を抱えている。これらの課題に対して、地域のために少しでも役立つように、漁業士活動の中で多様な取り組みを行った。

5. 研究・実践活動の状況及び成果

(1) 料理教室

平成18年4月に開催した支部総会で、近所の家庭で「魚の捌き方が解らない」という話を聞くと話題になり、「自分達の獲っている魚を、地元の人に普及しよう」と、年1回のペースで料理教室を開催することになった。対象は、小学生とその保護者とし、魚の調理方法の講習に加えて、漁業への理解を深めてもらうために、漁具や漁法の説明もしている。食材は、開催地で獲れる魚を中心とした地元の魚介類を用いた。講習も、1品ずつ漁業士が手本を見せた後、受講者が各調理台で調理をするように進化した。その際、気軽に質問ができるように各調理台に、漁業士を1名ずつ配置した。講習では、「キンメダイのウロコを取るのにアワビの殻を使うと、ウロコが飛び散らないよ」等、漁師ならではのアドバイスを交え、子供達の興味を引く工夫をした。



写真1：料理教室の様子

平成20年度は、県シーフード普及促進協議会との共催で、全漁連の「にっぽん食育推進事業（魚介料理教室）」に採択され、料理教室に係る食材費等の助成を受けた。この時、食事バランスガイドのポスターや資料の提供を受け、栄養バランスについても話ができ、講習の幅が広がった。

3年間で2市1町と広範囲で料理教室を開催し、9魚種11種類の調理法を、54名（小学生31名を含む）に紹介できた。実施した3回の料理教室のアンケート結果では、「また、参加したい。」「魚の調理方法が解ってよかった。」「今後、魚料理を増やす。」等、料理教室の必要性と魚食普及の手応えが感じられた。

表1．料理教室の開催内容

	開催地	受講者 (うち小学生)	漁業士	メニュー
平成18年度	勝浦市	10名(5名)	6名	キンメダイ(キンメダイ飯、煮付け、潮汁、カルパッチョ) ゴマサバ(さんが春巻き揚げ)
平成19年度	いすみ市	19名(12名)	8名	イセエビ(カレー、味噌汁)、ヒラメ(刺身)、カタクチイワシ(梅煮)
平成20年度	御宿町	25名(14名)	9名	アワビ(刺身)、サザエ(サザエご飯)、イナダ(ブリの若齢魚)(刺身)、スルメイカ(リングフライ)
合計	3地区	54名(31名)	延べ23名	9魚種11調理法

また、平成19年度には、私達の地域の食育ボランティア(県の進める食育活動に協力するボランティア)研修会で、女性漁業士1名が、地域の漁業、その魚介類の食べ方及び私達のグループの魚料理教室活動について、講演をする機会があった。その研修会には約50名

の参加があり、農業関係の方が多かったので、漁業のことも知ってもらい、今後のボランティア活動に活かしてもらえればと思っている。

その他に、平成20年度からは、勝浦市公民館からの依頼で、年間5回の料理教室の講師をすることになった。この料理教室では、1回あたり15名の受講者に対して、2品ずつ魚料理を紹介している。

(2) 漁業体験

私達は、県の後継者対策事業に積極的に協力し、漁業体験の講師をしている。平成20年度では、高校生を対象とした事業で、いすみ市でイセエビ・ヒラメの「さし網漁業」に6名、勝浦市でサバの「ハイカラ釣漁業」に2名を受け入れた。内容は、1日目は漁船に乗船して漁業を実体験し、2日目は市場で、魚の選別等を見学した。

その他にも、いすみ市が開催する漁業教室へ参加し、中学生約30名に対し「さし網漁業」についての説明を行った。乗船しての「さし網漁業」体験をする予定であったが、シケで漁法の説明に変更となり、中学生達は残念がっていた。

これらの活動は、地元の子供達に漁業の現場を体験してもらえる良い機会だと思っており、漁業後継者の確保につながることを期待している。



写真2：さし網漁業体験の様子

(3) 研修会

私達は、漁業者の知識向上を目的に、地元の各漁協青年部と共催で研修会を実施している。開始から3年間は、県行政機関や地元の先輩漁業者を講師として開催していたが、その後は、支部や青年部、研修参加者のアンケートから研修テーマを決定し、その内容に即した講師を外部から招き、開催している。

5年間で11テーマを取り上げ、延べ132名の漁業者が受講した。今後も、地元漁業者の要望を把握し、有意義な研修会を開催していきたいと思っている。



写真3：研修会の様子

表2. 研修会テーマ

	内容
平成16年度	①漁業権と漁業許可②イセエビの生態③キンメダイの操業規約
平成17年度	①漁業調整規則②黒潮とカツオの漁場形成③マグロ漁場の開拓
平成18年度	①漁協と組合員とは②栽培漁業とその効果③アワビの資源管理
平成19年度	漁船の省エネ要素について
平成20年度	鮮魚の流通について
合計	11テーマ

(4) 環境対策

私達のメンバーの1人が、他県でナイロン漁具のリサイクルをやっている情報を入手した。今まで産業廃棄物として処理されていたものが、リサイクルできれば、資源の有効活用につながり、環境対策になるのではと考えた。そこで、まずは回収業者を捜し当て、このことを、平成20年2月の支部集会で情報提供したところ、漁業士全員が賛同し、各自、地元でリサイクル活動の普及に努めた。



写真4：さし網回収の様子

そして、平成20年4月に実施した「さし網」の回収を皮切りに、11月までに4漁港で7回、「さし網」や「ナイロンテグス」が回収され、不要なナイロン漁具を回収業者に販売することができた。この活動は、地元の船団で回収方法を決定したり、船団役員が回収ボックスを設置するなど、それぞれの地域で多くの漁業者や漁協職員の協力によって実現できた。更には、この話が漁業者の間で伝わり、漁業士がいない地域でも取り組みが始まっている。私達としては、この活動が広がり、少しでも環境対策につながることを期待している。

(5) 男女共同参画

漁業と言えば日焼けした男性のイメージが強いと思うが、「乗船し出漁する」女性はもちろん、港での「水揚げ作業」、「仕掛けづくり」及び「餌の準備」等の漁業作業の他、家庭での「家事」や「育児」と漁家での女性の働きは重要である。漁業では、女性の参画が分かりにくいのが、男性漁業者は皆、浜の女性には感謝をしている。そこで、平成19年2月の支部集会で、日頃の感謝の気持ちを目に見える形にするため、シールにして漁船に貼ることになった。最初は、経費削減のためパソコンで各浜の代表的な魚種をデザインしたシールを作成し、試験的に数名の漁業士の船に貼ってみたが、日光や水に弱く、数日で色落ちした。そこで、県漁業士会から「新たな試み」ということで資金援助を受け、印刷会社に耐水・耐光性のあるシールを発注した。デザインは、県の魚であるタイに統一した。平成19年度中に、私達の地域の13地区の漁業者に156枚と、私達の支部以外の県内漁業士に54枚を配布した。



図2：男女共同参画シール

また同年に、県内の農林漁業に従事する女性のフォーラムがあり、女性漁業士1名が、この取り組みについて、報告を行った。



写真5：漁船へのシール掲示の様子

会場からの反応は、「農業でも取り組みたい」と高い評価を得ることができ、私達の活動が広く認められた。

6. 波及効果

漁業士活動の良いところは、漁協の枠を越えた広い地域で、活動ができることである。料理教室では、3年間に2市1町で開催し、アンケート結果から魚食普及の手応えが感じられた。そして、平成18年度の料理教室が縁で、平成20年度から勝浦市公民館の周年にわたる料理教室へと活動が広がった。

男女共同参画シールも私達の地域を越え、県内に広まった。また、活動初期には、地域の漁港に入港する県外船にも配付した。ただし、パソコンで自主制作した色落ちする物だったので、色落ちしない物が欲しいと言われたが、印刷会社で製作した物は数に限りがあり、県外船には配付できなかった。しかし、県外船にも好評であり、私達の活動が理解されたと思われた。

また、私達の活動には、地元漁業者との連携が不可欠であり、漁具のリサイクル等、様々な活動を通じて、協力の和が広がりつつある。

7. 今後の課題や計画と問題点

今までは、支部としてまとまって活動をしてきたが、近年、個々の漁業士活動も始まっている。公民館から依頼された料理教室は、その市に住む女性漁業士2名で活動している。その他にも、自分でテーマを持ち調査した結果を、支部内で情報提供する者もいる。今後は、個人が行う有意義な研究についても、支部として支援し、活動の活性化を図りたい。

その他にも、漁業について普及するため、私達の地域で営まれる様々な漁業をビデオ撮影し、小学校等へ出張講義に行きたいとの要望もあり、現在、その準備を進めている。

また、料理教室や漁業体験で地域住民や子供達と触れ合うことは、我々にとっても刺激になり、活動の励みになっている。

これからも、地域の役に立つよう、一致団結し、広域で多様な活動を展開していきたいと思っている。